

8月4日。この日、盛大に行われた平瀬ダム  
の定礎式で、定礎石を担  
ぎ運ぶ男性たちに混ざ  
ってひととき小さな人  
物が石をけん引してい  
た。「石は担げないけど、  
揺れを抑えたりはでき  
るだろう」と、私も法被  
を着て運べと所長が勧  
めてくれました。式典で  
法被を着るのはダムと  
トンネルだけらしく、体  
験したくてもめったに  
できるものではないの  
で、とても嬉しかった  
です」と満悦の表情で語る  
のは、清水建設広島支店



清水建設広島支店土木部

## 平井 恵梨さん

恵梨さんの影響を受けて今年、東工大建築学科に入学した妹と両親の4人家族。趣味はフットサル。観戦も好きで広島に来てからはサンフレッチェサポーターに。間もなく23歳を迎える10月26日生まれ。

# 輝くけんせつ Woman

土木部の平井恵梨さん。今年4月に入社したばかりのフレッシュウーマンだ。

神奈川県出身で、法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科を卒業後、清水建設に入社。約1か月の研修を経て広島支店土木部に初任配属。7月から錦川総合開発事業平瀬ダム建設工事を行っている、清水建設・五洋建設・井森

## 人と社会に役立ちたい

工業・ナルキJVに加わり、初めての現場で刺激的な毎日を送っている。現場では、組まれた鉄筋の確認などを行う鉄筋管理を経て、この10月からコンクリートの品質管理を担当。その日打設に使用するコンクリート量や必要な骨材の運搬手配、打設後のコンクリート品質確認などに奮闘している。現場の女性は彼女一人。「初現場なので覚悟を感じたそうだ。」

「最初、ゼネコンは残ったけど、在学中にインターンや現場見学会にたくさん参加して、ゼネコンという業界がどういったものかわかった上で入っている。空感というかわからないけど、現場は男性ばかりだけど、ありがたいことに皆さんとても優しく、コミュニケーションが不足することなく、毎日気持ちよく仕事しています」と屈託のない笑顔かと思える。真剣な面持ちで「た

だ、作業が一つでも止まったら、現場全体が止まってしまう」ということを肝に銘じて現場に入ったつもりでいる。現場では、組まれた鉄筋の確認などを行う鉄筋管理を経て、この10月からコンクリートの品質管理を担当。その日打設に使用するコンクリート量や必要な骨材の運搬手配、打設後のコンクリート品質確認などに奮闘している。現場の女性は彼女一人。「初現場なので覚悟を感じたそうだ。」



定礎石を運ぶ平井さん（中央）

「私自身、入学時から考える現場を経験して女性と、こうして自分がのこのこと。あと、私がこの業界に入るきっかけになった鉄道を手がけたらなあ。今だとニアモーターカーとか憧れますね」と希望に満ちた笑顔で語った。

同時に作業員どうしのやり取り、人と人が関わらなければならない。安全の重要性がなくなったのだ。「便利で快適になって嬉しかったし、驚きも感じた。初めて見えてきた。しかしその仕事をなした。人の力があることに感動しました。これは本当にすごいことだ。夜間作業という制約の中、人知れず少しづつ長い時間をかけて完成させ、多くの人に喜ばせたいと彼女。出産後の大変な仕事だけ人や社に役立つ仕事。私も私かもあると両立は無理かもしれない。でも、この仕事に関わりを持ちたいので、育児期間中は制度が充実している内勤で続けて、子供の手が離れたら現場に復帰したい」と、現場に復帰したいと、現場